

## 世界のレモン収穫量の減少で供給が逼迫

[FreshPlaza 2025年9月23日](#)

世界のレモン市場は、供給の制約、価格高騰及び不確実性の時を迎えている。欧州の主要レモン産地であるスペインのムルシア州では収穫が始まっているが、今シーズンの収穫量は15~20%、または最大40%昨年を下回ると予測されている。これにより、供給計画の不安定化や12月下旬から2月にかけての品不足が起こる可能性がある。産地価格は既に昨年の水準を大きく上回っており、今後の出荷期間中も上昇が予想される。欧州市場の南アフリカ産の在庫は急速な減少が見込まれ、スペイン産への依存が高まると見られる。

世界的な供給は依然として逼迫している。アルゼンチンは今年、多くのレモンを欧州向けに出荷したため、米国市場向けの供給量が減少し、チリはその不足分を補うことができなかった。メキシコでは現在収穫が始まっているが、豪雨の影響で小玉傾向となり、中級品の比率が高く、市場への出荷可能量が限られている。カリフォルニア州では来月から出荷シーズン迎える予定であり、供給不足の一部は緩和する可能性があるが、価格は高止まりすると見られ、米国の生産者にとっては高収益が期待される。

今シーズンのレモン業界は全体として、生産量の減少、価格の高止まり及び貿易・物流上の課題に影響されている。輸入業者、小売業者、外食業者は、供給の不安定化を見越して早期に調達計画を立て、冬の需要ピーク時の品薄を避けるための慎重な数量配分が求められる。

米国の貿易措置も不確実性を増大させている。ペルー、チリ、ウルグアイからの柑橘類輸入には10%、南アフリカ産柑橘類には8月8日から30%の関税が適用された。関税発効前の出荷が加速されて一時的な供給過剰が発生し、その後は入荷量が減少した。今後、シーズン後半には在庫が安定する見込みである。これらの関税の変更は、2026年に向けた輸入計画及び価格設定に影響を及ぼす可能性がある。

より広範な柑橘類市場では、供給の不均衡が顕著である。小玉のオレンジは需要が高く供給が逼迫している一方、大玉は動きが鈍い。シーズン初期のクレメンタインには品質問題が見られ一時的に消費者の信頼を損なったが、その後の出荷分では改善が見られた。

出典: Mintec/Expana

## スペイン バレンシア州でカキ、柑橘類等に降雹被害

[FreshPlaza 2025年9月24日](#)

バレンシア州農業者・青年農業者協会(AVA-Asaja)によると、先週末に発生した雹を伴う激しい嵐により、ラコスセラ、ラサフォール両郡の1,700ヘクタールの農地で総額900万ユーロの深刻な損害が発生し、特にオリーブ、カキ、アボカド、柑橘類が大きな被害を受けた。

初期の査定によると、(両郡の)バジャーダ、ビジャロンガ、アドールの各町では、農地に著しい被害が確認された。モイシエント、オリーバ両町の一部では、大粒の雹でオリーブ、柑橘類、カキに80%以上の損傷が生じた。生産者らは、果実の損傷は既に明白だが、損失の全容が明らかになるには数日かかるとしている。

AVA-Asajaのモイシエント地区の代表であるホセ・ルイス・サンチス氏は、90%が被害を受けたオリーブ畑の状況を「壊滅的」と表現し、「わずか数本のオリーブの樹しか生き残っていない区画もいくつかある。損失は数百万ユーロ規模になる可能性がある」と述べた。モイシエント地区の契約生産者であるラファ・トマス氏は、雹は時速100kmに達する突風を伴っており、「カキにとっては致命的だった。一部の区画では生産物が全て失われた」と語った。柑橘類でも一部で同様の事態が発生し、果実が損傷して市場出荷できない状態である。

AVA-Asajaは、農業保険機関(Agroseguro)に対し、損害査定迅速化を求めるとともに、地方自治体に対して、直接支援、低利融資、税制優遇措置等の緊急支援策の実施を要請している。

一方、(同州内の)カステリオン県では雹の被害はなく、降雨のみであった。ベニカルロ、ビナロス、ペニスコラ等北部の町では、降雨が作物にとって有益であり、果実の肥大や干ばつストレスの緩和に寄与している。